



第126回
水戸の梅まつり
2月11日(金・祝)～3月21日(月・祝)
会場：偕楽園・弘道館

【写真提供：水戸観光コンベンション協会】
偕楽園の開園は天保13年(1842年)。2022年は180周年の節目を迎える。今回は新型コロナウイルス感染症対策を施しながらの開催。期間中は歴代水戸の梅むすめ・梅大使のついでや、野点茶会などのイベントも予定されている。尚、偕楽園本園への入園は入園料(大人300円、小中学生150円・団体割引有)が必要。

チームラボ偕楽園光の祭
2月1日(火)～3月31日(木)
梅まつり期間中を含む2月1日から3月31日までの18:00～20:30(最終入場20:00)、「チームラボ偕楽園光の祭」が開催される。偕楽園は17:00に一度閉園する。「チームラボ偕楽園光の祭」を見るには、別途入場料が必要となる(チケット購入は特設ウェブサイトから)。

● 散策コース ●

駅前の鳥居のある階段を登り切れば常磐神社。社殿でお参りを済ませたら、境内を散策しよう。光圀公・斉昭公ゆかりの品などが展示される「義烈館」や能楽殿、幕末の志士に多大な影響を与えた藤田東湖を祀る東湖神社、光圀公の幼少期を支えた三木夫妻を祀る三木神社など、見どころは多彩だ。

偕楽園公園の沢渡川緑地には紅葉の名所・茨城県立歴史館がある。常設展示のほか、ユニークな企画展も見逃せない。園庭には旧水海道小学校本館など貴重な建築物もある。

偕楽園本園は「水戸の梅まつり」の会場のひとつ。まつり期間中の梅の香しさは春の訪れを感じさせる。斉昭公が自ら設計したといわれる好文亭、幻想的な孟宗竹林、樹齢800年の太郎杉、千波湖を見下ろす仙奕台など、1年を通して楽しめる。

千波公園は市民のいこいの場所。遊具や広場で遊ぶ親子連れや園内を散歩する人で賑わっている。自然豊かな公園で、散歩だけでも楽しめる。冬になると千波湖に渡り鳥が飛来することも魅力の一つ。園内には水戸光圀公像や徳川斉昭公・七郎麻呂(慶喜公)像、D51などがあり、写真スポットも豊富。千波湖の西側には好文茶屋やがあり、休憩に立ち寄りたい。

●お問い合わせ／水戸市産業経済部観光課 ☎029(224)1111(代表) ●企画・制作／読売茨城広告社 ☎029(244)5555

Vol.118

駅からのふるさと紀行 JR常磐線

臨時駅 **偕楽園駅**

← あか つか み と →
赤 塚 水 戸

(注)水戸の梅まつり期間中の土曜・休日に開設となります。
●次回は2月27日の掲載予定です。



働く人と、世界を走る。

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)
https://www.ibaraki-isuzu.co.jp



●水戸の梅まつり期間中の土曜・休日だけ利用できる臨時駅。Suica等交通系ICカードにも対応している。

●水戸の梅まつり期間中は特急列車も ●ホームは下り線のみ(2021年3月撮影)

※イラストはイメージです。

春の訪れを告げる水戸の梅まつり開催期間中の土曜・休日に開設される臨時駅

春の訪れを告げる水戸の梅まつり。日本三名園に数えられる偕楽園は、弘道館とともにその会場となる。園内には約100品種3000本の梅が植えられ、早咲き、中咲き、遅咲きの種類があるため、長い期間にわたって観梅が楽しめる。

梅まつりはJR常磐線の水戸～田端間が開通し、観梅列車が運行された明治29年に始まった。期間中の土曜・休日は、9時から15時台の間(昨年の場合)、特急列車を含めた常磐線の下り列車は偕楽園駅に停車する。

偕楽園駅は大正14年、公園下仮降車場として開業した。昭和42年には偕楽園仮降車場、2年後に偕楽園臨時乗降場と改称され、昭和62年に現在の駅名となった。平成28年にはリニューアル工事が行われ、ホームや線路が嵩上げされ、バリアフリー対策としてスロープも設置された。

まつり期間中は水戸の梅大使のお出迎えがあることも。水戸の梅まつりには偕楽園駅から出掛けよう。

2022年1月23日掲載 読売新聞茨城版【全5段】
広告原稿校了後、「読売新聞広告掲載基準」に基づいた審査がございます。審査結果により原稿内容の修正・変更をお願いする場合がございますので予めご了承ください。

校正日	月	日()	:	校正担当	営業担当	制作担当
					赤須	根本

株式会社 読売茨城広告社
水戸 / TEL.029-244-5555(代) FAX.029-244-5151 mito@yoiko.co.jp
つくば / TEL.029-821-6432(代) FAX.029-824-1754 tsukuba@yoiko.co.jp